

『コクリコ坂から』

PTSD が 普 通 に 治 癒 し た 時 代 を 思 い 出 す た め に

森 下 温 美 (関 西 医 療 学 園)

I. 物語られる PTSD

こころのケアの定義は、自己治癒力が作動することであり、傾聴を基本とする。紫式部が①話さずにはいられなかったこと②架空と定義した物語を書いてトラウマを昇華させ大文豪として個性化した漱石の代表三部作『それから』『門』『三四郎』に倣って、ジブリは『崖の上のポニョ』『借りぐらしのアリエッティ』その実際としての『コクリコ坂から』3部作でPTSDの本質を表現した。

II. あらすじに代えて

イザナミ(波・陽)とイザナキ(風・陰)から生れたスサノワが、泣きながら古事記の基礎を造ったのが変容の象徴の【元型】であろう。アリエッティがアマテラスモチーフとスサノワモチーフを具有しつつ、自己治癒力の象徴として PTSD 性心臓病の主人公の孤独を癒したが、本作品では、ヒロイン海(メル)は家族的無意識にある問題に気づき、ひきこもり、涙あふれ、幻覚を見るなかで個性化した。アマテラスの観た鏡の実際を示す海の物語は華厳の海印三昧(無意識の法則)そのものの具現化でもある。

III. 【如人千尺懸崖上樹】の内実の考察

漱石の『門』もジブリ 3 部作も釈迦以前から連綿と続く PTSD からの克服法である禅の公案【如人千尺懸崖上樹】がモチーフになっている。サハラ熱風を意味するジブリが、海と風間俊を出会せるのは通称「ちんちろりん戦法」という『風鈴頌』の秘策を暗喩している。この公案をいろんな方向から考察したい。

①一太極二陰陽 明恵上人の樹上坐禅図や般若心経の「色即是空 空即是色」であるが、海は三つ編みで気合を入れる。

②華厳の海 ポニョの海は【一即多 多即一】の華厳の海印三昧の象徴であった。アリエッティで、花と竈馬で示されたこの法則は、花の洪水(漱石の『虞美人草』の別名コクリコ荘・花を飾る・祖母の名は花)と、かまどの象徴する陰陽五行説の「火生土」に分けて展開された。正法眼蔵『弁道話』は「丙丁童子来求火」、シンデレラは灰かぶりの意であり、火気が女性のこころの回復や個性化の素となる重要イメージであることを示している。

③『上を向いて歩こう♪』 日航機墜落事故で PTSD 予防のように当時流れたこの曲のように、海は毎日旗を挙げ続け、独りぼっちの夜を航海することで個性化した。

④一日一生 女性たちが住むのはコクリコ荘という下宿。アリ

エッティの豊かな借り暮らしは、1963 年頃まで確かに存在した日常であり、切り盛りする海は禅宗の典座のようである。当たり前で、花を飾り(華厳の意)、当たり前で火や水(陰陽五行説)を使い調理する。架空とは西田哲学でいう【平常底】であり、絵空事やありもしない異界ではない。「女三界に家なし」と言うが、そもそも人間存在そのものが借り暮らしであり、そこで個性化するのポニョも天台宗千日回峰行達成大阿闍梨も同じである。

⑤人間関係 普通の人間関係が人を癒すのは 3 作共通である。風間俊は海の旗に返信し続けているが、海はなかなかそれに気づかず、陰陽の呼応に気づき意識化された時、全体性を示す絵の中に組み込まれる。死角はシャドウ(影)でもある。

⑥イメージによる自己癒し 前作で批判されたドイツ精神医学の謝罪があり、PTSD 中心の DSM5 の改編とくれば、箱庭療法批判についても、1963 年当時に還り、「象徴がない」「かぐや姫はわがままである」など恣意的な偽の【象徴】理解も是正しアウシュビツ(『因幡の白兔』的誤診と薬害)に幕を下ろさねばならない。

⑦感官 前 2 作でも示されたが、本作品では、取り壊しの危機にあったカルチュラタンに対して「古いものをこわすことは、過去の記憶をすてることと同じじゃないのか!」「明治以来の伝統を何だと思ってる!」「OB に顔向けができるか!」と大掃除し再生させる。朝食を食べない祖母花も身心一如の感官的存在である。

⑧普遍的無意識にある戦争 PTSD コンプレックス 海の妹の名前は空、弟の名前は陸。朝鮮戦争で亡くなった父のために毎朝旗をあげるヒロインと戦争孤児の俊が出会い、出生の秘密の片鱗に触れショックを受ける。しかし戦争トラウマ昇華中のジブリは、二人を『冬のソナタ』のように解離性健忘&解離性遁走の行方不明にして苦しめず、登場人物が戦争 PTSD としての依存症を呈する『タクシードライバー』や『ラストサムライ』とも違うかたちで海をとりまくすべてを短期間にダイナミックに個性化させてゆく。

IV. 日本的靈性

古事記編纂 1300 年、高松塚古墳発見 40 年の本年、織女の如く ASD 死された故河合隼雄文化庁長官の御霊にこれを捧げ、未曾有の危機に見舞われた臨床心理学の未来を占いたい。

PTSD 日本的靈性 コクリコ坂から

モリシタ アツミ